令和４年度第４回高知県産業振興計画フォローアップ委員会林業部会　議事概要

日時：令和５年３月 23 日（木）10:30～11:30
場所：高知城ホール　４階多目的ホール
出席：部会員９人中、７名が出席
議事：「再造林推進プラン」の骨子について

議事について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）
「再造林推進プラン」の骨子については、原案どおり了承された。

※意見交換概要

（福吉部会員）
・獣害対策について、重要な取り組みだと考えているが、現在のシカ生息数がここ数年増えているのか減っているのか分かれば教えていただきたい。
・原木生産量について、現在 65 万立方メートルで目標 85 万立方メートルとなっているが、それぞれ主伐・間伐の割合が分かれば教えていただきたい。
・野生鳥獣による林業被害額について、R3 は 8,896 千円となっているが、このうち新植被害の割合が分かれば教えていただきたい。国有林でもシカ被害が多いため、新植後にはネットを張っているが、これだけでは防げない。雪害や風倒木等によりネットが倒れてしまい、一晩や二晩でシカ被害に遭っていたため、翌年度には改植や補植を行っていた。そのような被害があった場所で翌年度に改植や補植を行っているのか気になる。

（中屋木材増産推進課長）
・シカ生息数の推移について、県鳥獣対策課が取り組んでおり、R3 生息数の推定はできていないが、令和２年度末推定生息数は約７万５千頭になっている。被害からの推定でいくと、生息数も減っているのではないかと思う。毎年２万５千頭を捕獲する計画で進めており、直近では約２万頭を捕獲した状況となっている。
・原木生産量における主伐・間伐の割合について、令和３年度はまだ出ていないが、令和２年度は材積ベースでほぼ同じ割合になっている。コロナの影響もあり、通常ベースではないかもしれない。ちなみに令和元年度は５５パーセントが主伐となっている。
・新植被害の割合について、今は数字を押さえていないため、確認して報告させていただきたい。

（後藤部会員）
・前回の部会からは詳細なプランとなっている。今後、このプランを県民に提示（公表）されると思うが、再造林に関しては報道等で県民の関心も高いと思うので、分かりやすく見せる工夫をお願いしたい。また、これにも関連してくるが、骨子（案）３の林業収支の状況について、現在の国や県（市町村）の補助施策についても数値（補助金額）を盛り込んで示した方が良い。事業体や森林所有者としても、再造林する際の事業地に当てはめながら費用負担をイメージしやすい。一方で、具体的な作業技術を改善していくような傾向であれば、それも示してあげた方が良い。例えば、苗木を運搬するに

しても傾斜地が多い所では大変なのでドローンを活用するなど、将来像を示すような情報提供もあれば良いかと思う。

（中屋木材増産推進課長）

・プランの公表については、簡易なパンフレットを作成し、増産・再造林協議会を通じて関係者にお伝えするとともに、伐採届が提出される市町村から伐採業者にも配布し、伐採の段階から再造林を意識してもらうような流れを作っていきたい。

・林業収支の関係について、同プランにも盛り込んでいくが、新しい手法として、ドローンによる苗木の運搬についてはスマート林業の推進ということで、県下で約１７台は既に導入している。また、下刈りの省力化に向けた林業機械の実証も進めており、県内の傾斜条件に適合する機械の導入を図っていきたい。

（濱﨑部会員）

・資料４ページ目、骨子（案）３の林業収支のシミュレーションについて、具体的にどのような形で行っていくのか教えていただきたい。

・資料２ページ目、主な意見について、「林業経営としての視点が必要」や「（温暖化などの）危機感が感じられない」などが再造林に繋がりにくい原因ではないかという意見もあったが、私もそう感じている。これはどこに反映されているか。

（中屋木材増産推進課長）

・シミュレーションについて、再造林から伐採までのサイクルで色々なパターンがあり、基本的には低コスト施業と言われる部分の収支をシミュレーションしながらトータルコストがどうなっていくか示していきたい。例えば、再造林の場合だと低密度植栽であったり、成長の良い苗木を使った場合の下刈りや保育間伐の回数など、従来の施業方法と比較して新しい施業体系では経費がいくらかかるのか、木材生産に移った段階でいくら収入があるのかなど、トータルコストがどれ位になるのかを示していきたい。また、林業適地の中で伐ったら植えるということを進めていきたいと考えており、そういった地形で想定される生産性も踏まえて、トータル収支を示していきたい。

・温暖化への危機感等について、骨子（案）の段階であまり強く記載はしていないが、中に盛り込む段階ではそういった意見も反映させていく。2050 年カーボンニュートラルに向けて、今取り組んでいることを記載していきたいと考えている。

（武田部会員）

・資料６ページ目、KPI について、資料４ページ目の基礎数値とリンクしていると思うが、計画自体は再造林面積や再造林率ということで、最初の負担軽減に KPI の数値は入ってくると思う。収支も基礎数値の算定であり、KPI に出てきていない。

（中屋木材増産推進課長）

・収支があって負担軽減の目標とする数値が出てくると思うので、そこはリンクさせなければいけないと考えており、ご指摘のとおりその方向で進めていきたいと考えている。

（武藤副部長（総括））
・収支をKPIとして設定した場合、その数値を押さえきれるかという問題もあるため、その点は研究させていただきたい。

（山﨑部会員）
・このプランの指標の目標において、林業の担い手の現状が６年後に増加するというシミュレーションになっていると思うが、担い手が増加することは難しいと思うので、しっかりと検討していただきたい。
・再造林の指標から外れるかもしれないが、カーボンニュートラルについて、小学生を対象に国産材や県産材の木は良いという教育も一緒にできたら良いと思う。

（中屋木材増産推進課長）
・ご指摘のとおり、担い手を増やすことは難しい問題と考えている。今回、再造林がクローズアップされたことで再造林を専門に扱う事業体が全国的にも出てきており、色々な形で林業への関わり方が出てきている。併せて、機械化による省力化といった要素も踏まえて、トータルで目標とする体制に持っていきたいと考えている。
・カーボンニュートラルについて、知事もグリーン化に力を入れており、環境税や産振計画とも連携を図りながら進めていきたい。

（後藤部会員）
・担い手の確保について、素材生産の部分では機械化がこれまで積み上げられてきたが、保育の部分では検証も難しいため、現状ではほとんど進んでいない。道を入れてコンテナ苗を近くまで運んで植えるといったところまではできているが、傾斜地になると難しい。もう一点、例えば、作業環境の改善や蜂刺され用の装備品など、労働の軽減に向けた工夫も検討していくべきではないかと思う。

（中屋木材増産推進課長）
・ご指摘のとおり、担い手対策については、省力化だけでなく軽労化、安全化を進めることも重要になってくるので、そういった視点で機械の実証も行っている。遠隔操作等により、下刈りや地拵えができないか取り組んでいる。すぐに画期的な物ができる訳ではないが、国の方でも実証プログラムに取り組んでおり、そういった点にもアンテナを張りながら労働環境の改善に繋がる取り組みを盛り込んでいきたい。

（小川副部会長）
・今年１月に知事が地球温暖化対策やCO2吸収源対策でカーボンニュートラルを掲げられて、取組の一環で再造林に力を入れていくとのことだが、県のトップがそういった姿勢を示してくれたことに、林業関係者としては有り難く思う。このプランについて、良くできていると思うが、高知県は他県に比べて何が劣っているのかを考えた時に、林道が十分に整備されていない。他県よりも非常に劣っている。苗木を集材機等で運搬することや早生樹と外国樹種を植えることも大事だが、計画的に他県へ早く追い付けるような整備を進めることが重要でないかと思う。こういった会議のたびに話しているが、資料等には一切触れられていないため、県として他県に追い付くことは今の予算上無理なので、路網

に関しても今できることを最善尽くしてやっておられる気がする。傾斜30度の地形で苗木を背負って運ぶことは現実的に無理であり、伐採するにしても現地まで運搬車で移動して作業に入れるような状況でないと、今後林業に従事する人が減っていくと思う。せめて姿勢を見せていくというか、路網を入れることで伐採の収益も上がる訳であり、再造林もしやすくなると思う。いつも繰り返しになって申し訳ないが、私の信念として感じている。

（中屋木材増産推進課長）

・今回のプランについては再造林にスポットを当てた形になっているが、林業適地で再造林を進めていくためには基幹路網は重要になってくると思う。林業適地における適切な作業システムを行うため、林道等の基幹路網を配置できることがベターになると思うので、管理主体は市町村であるが、路網配置の参考となるような林業適地を示していけたらと思う。

（濱﨑部会員）

・お願いになると思うが、再造林や下刈りの現場で女性はトイレの問題がある。間伐現場だと木陰だったり身を隠す場所があったりする。女性だけの問題ではなく、男性も当たり前に使うようなトイレを現場に持って行けたら良いと思う。現場の女性に聞くと、自分だけがトイレを使用することに抵抗を感じており、参入しづらい要因になっている。男性も現場ではトイレを使用するといった形にすれば、女性も参入しやすい。

・何年か前に「WOOD JOB」という映画があったと思うが、Ｉターンや林業に興味を持ってくれた方が多かった気がする。うちに面接に来てくれた方でもそうだったが、理想と現実で違う部分はあったとしても植えていくことにどんな魅力があるのか、映画化することで興味を持ってくれる人も増えると思うので、検討してもらいたい。

（中屋木材増産推進課長）

・担い手の観点からいくと、男性も女性も取り込んでいくことが望むべき世界だと考えており、そのようなご意見も取り込んでいきたい。

・映画化について、以前は、アメリカのような林業先進地では林業が一番なりたい職業だという話もあったので、日本でもそういった方向になるように、林業適地の中で新しい林業の形を作っていくことで労働環境の改善に繋げていきたいと思う。

（豊永部長）

・映画の作成は難しいが、動画については検討をしたい。

（以上）